

園だより 6月

わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。

箴言 1章8節

真夏の様な日、肌寒い日など、初夏を感じる5月とは言えないひと月でしたが、子どもたちはそのときそのときをそれぞれに感じ、想いを廻らし幼稚園生活を過ごしておりました。保育者たちは今月も子どもたちの遊びの様子であったり、季節の変化に対応した環境を整えました。

外遊びに使う道具の数は前年度同様に備え、新年度をスタートしておりました。園児の人数に対して道具の数が多くなった今年度。其処此処で広がる遊びを見守り共に過ごす中、ある疑問が湧きました。何故か外遊びの道具が園庭に散乱している、子どもたちが使っていないシャベルやバケツ、器が放置されている。今までには無かった情景でした。また、使いたい道具が無くて困っている様子の子どもたちが居ない。これは道具が十分に足りているということで一見良いことのように思われますが、観点を変えますと、十分であるが故に子どもたち同士の「使いたいな」「貸して欲しいけど」「貸してくれない」「あっ、とられちゃった」「返して」「どうしたら...」というような、思いの交流・伝え合いの生まれるきっかけがない。4月はその足りている環境が園内に穏やかさをもたらし、4月のときとしては良いときでありました。けれども成長をし続ける子どもたちにとって、5月に入ってもそのままでは育みの成される環境にならない。保育者たちは考え、外遊びに使う道具の数を見直しました。そうして迎えた5月中頃。子どもたちの様子が変わりました。貸して欲しいけれど、どうしたら良いか戸惑う年少児、その様子を感じて「どうしよう」と考え向き合う年長児。友だちに「今は使っているからダメ」と言われ、どうしたら...と思いを廻らす、時にぶつかり合う子どもたち。今の時期に大切な、子どもたち同士の成長を促す交わりのときが与えられました。

活動が活発になってゆくことで安全についても深く考えるひと月となりました。子どもたちの「やりたい！やってみたい！」は出来る限り叶えたい思いであります。けれども伴う危険に対する危機感をしっかりと持たなくてはなりません。子どもたちの遊びの展開を予測しつつ、保育者たちそれぞれの安全に配慮した立ち位置の更なる工夫、子どもたちと安全に過ごすことの大切さを共に考え危険を防ぐなど、6月も穏やかな日々を考えつつ過ごして参りたいと願います。様々にご理解とご協力を宜しくお願い申し上げます。

園長 駿河 幸子